

コード No. 18987

**Anti-Human
Septin 4 (N) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : 細胞分裂をはじめとする多様な生命現象に、「セプチン」とよばれる細胞骨格ないしはスカフォールドタンパク質ファミリーが関与していることがわかってきました。「セプチン (septin)」とは、微生物の分裂を意味する septation に由来する名称で、酵母の細胞分裂に不可欠な重合性 GTP 結合タンパク質として発見され、数個から数十個のセプチンサブユニットが自己集合して長さ数十ナノメートルのフィラメントを形成し、それらがさらに高次集合することでリボン、リング、らせんといったサブミクロンオーダーの構造を形成することが知られています。セプチンは多細胞生物でも細胞分裂や分化後の多様な細胞機能に関わるとされていますが、詳細な作用機構は不明です。哺乳類のセプチンファミリーの中で、Septin 4 (H5)は1次構造も発現パターンもユニークなサブユニットです。Septin 4 は、心、肝、精巣にも低レベルの発現がみられますが、特定のニューロンやグリア細胞で最も多く発現し、通常は細胞分裂に関与しないと考えられています。一方、ヒトのがん、パーキンソン病などの神経変性疾患、男性不妊症などの病態において Septin 4 の発現量や局在に異常がみられることが報告されています。

免疫抗原 : Human Septin 4 の N 端部分合成ペプチド (GKLDPYDSSEDDKEYVG)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色 1~5 µg/mL

使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

特異性 : Rat, Mouse と交差

参考文献 : 1. Kinoshita, M. (2006). Diversity of septin scaffolds. *Curr Opin Cell Biol.* 18 (1), 54-60.
2. Ihara, M., Kinoshita, A., Yamada, S., Tanaka, H., Tanigaki, A., Kitano, A., Goto, M., Okubo, K., Nishiyama, H., Ogawa, O., Takahashi, C., Itohara, S., Nishimune, Y., Noda, M., Kinoshita, M. (2005). Cortical organization by the septin cytoskeleton is essential for structural and mechanical integrity of mammalian spermatozoa. *Dev Cell.* 8 (3), 343-52.
3. Ihara, M., Tomimoto, H., Kitayama, H., Morioka, Y., Akiguchi, I., Shibasaki, H., Noda, M., Kinoshita, M. (2003). Association of the cytoskeletal GTP-binding protein Sept4/H5 with cytoplasmic inclusions found in Parkinson's disease and other synucleinopathies. *J Biol Chem.* 278 (26), 24095-102.